



通知表の価値と存在意義

今日は、通知表渡しの日です。私も全ての子供たちの通知表に目を通させていただきましたが、通知表の所見欄からは、担任が子供たちの活躍の様子や一人一人のよさに目を向けようとする姿勢が伺えました。学級の中で積極的に行動したこと、努力によって解決できたこと、今後ここに気を付ければもっと伸びるというヒント、今後への期待など、様々なことが書いてありました。このように、通知表には、子供を中心において学校と家庭とが連携して、子供の力を伸ばしていく貴重な材料としての価値があるのだと思います。

私が小学生の頃です。通知表を学校から持ち帰ると、祖母に通知表見せてと言われ、きょうだいの通知表と比べられて、「もっと〇〇を頑張らなん。兄ちゃんはもっとできとるよ。」などと言われ、なんだかモヤモヤした感覚をもったことを覚えています。また、通知表の学校からの所見欄も辛辣(しんらつ)で、「授業中、落ち着きがありません。もっと集中して話を聞きましょう。」など、短所も所見欄の主役の様に君臨していました。そして心のどこかで、通知表は「成績評価をするもの」という概念に囚われていた自分が居ました。一般的にもそのような認識が未だにあるのかもしれない。

しかし、通知表は子供たちの授業の中での学びの姿や、学級という社会の中での生活創りの様子、その結果としての教科等の子供たちの現在地が示されている貴重なそして励みになる資料としての役割を果たしています。

日本の新学習指導要領でも、特別活動において、「学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」という学習内容が示されています。ここには、自らの学びを振り返り、自己評価して、次につなげていくための目標を設定し、自分自身を育て、自己実現できる力を育てていくことが大切な学びの一つになるとされています。

ご家庭でも、お子さんの現在地を振り返り、今後どうその姿を生かして、伸ばしていけばよいのかを一緒に考えて欲しいと思います。そして、次への目標を立て、そこから具体的な行動目標(めあて)を設定することが重要だと考えます。そして通知表に書かれたお子さんのよさに感動し、そのことを伝え、次の学びへの意欲を高めて欲しいと思います。

そうすることで、通知表は、子供たちにとって明日を築いていける明るい存在となるはずです。ぜひ通知表を使って、前期の学びを語り合っただけであれば幸いです。

※昨年度の「わくわく通信87号」も参照してみてください。以下は熊本市の校長会で合意形成した通知表の熊本市の取り決めです。



通知表は年2回配付(前半:9月、後半:3月)※本校では9月13日(金) 3月修了式
内容は、1年生は2段階評価 2年生以上は3段階評価。評定(ABC)は、4年生以上。
道徳科と外国語活動(3・4年生)、総合的な学習の時間の所見については、前半の通知表は
全て同じ表記で学級・学年で学んだことについて書く。後半は個別に表記する。